

地域と大学

第38号

Newsletter No.38, Education Center for Regional Development

フィールドワークの現在地 —地域創造学環設立後3年を迎えて—

地域創造学環長・地域創造教育センター副センター長 平岡 義和

地域創造学環がスタートして3年がたった。昨春秋に新1年生がフィールドワークに加わり、1年生～3年生が学年を超えて、ともにフィールドに係わる体制が整った。4ページ以下にある学環の事業報告において、フィールドワークの取り組みについて紹介している。そちらもぜひ参照してほしい。私としては、フィールドワーク委員会とフィールドワークオフィスとの二人三脚で試行錯誤を繰り返してきたので、やっとここまで来たという思いが強い。一方で、多くの課題も見えてきた。

1期生である3年生を見ていると、地域の方々と物怖じせずに交渉し、率先してメンバーに声をかけ、企画の準備を進めるなど、学環がめざす地域人材養成において核となる社会人基礎力が身につけてきたと感じさせる学生も多い。しかし、大学で学んだ学問をフィールドワークに生かしているかという点、心許ないところもある。同時に、本当に地域に受け入れられているのか、不安も大きい。実際、地域のカウンターパートとの関係を見直さざるを得ないフィールドも存在する。そして、3年生が築きあげてきた下地を下級生に受け継いでいくことができるか、未知数である。

こうした課題を列挙していくと、実はフィールドワークの担当教員の力量が問われていることに気づかされる。学生に対して的確な指導ができていだろうか、フィールドとの関係構築をコーディネート担当の教員にまかせきって、単なる引率教員になってはいないだろうか、疑問は尽きない。とはいえ、研究としてのフィールドワークに従事してきた教員ですら、教育としてのフィールドワークに関しては初心者に近い。

い。たとえば、私自身、長年フィリピンのレイテ工業団地や水俣病などに関するフィールドワーク研究を行ってきた環境社会学者だが、担当しているフィールドは静岡市内の浅間通り商店街である。商店街についてはまったく



の素人で、まさに手探りで学生の指導、地域との関係づくりなどを進めてきた。その点で、フィールドは学生の学びの場であるだけでなく、教員が鍛えられる場所でもあるのだ。そこで、フィールドワーク委員会では、教員の指導力、フィールドへの対応能力などの向上を図るために、今後教員相互の意見交換会を定期的に関いて、それぞれが担当しているフィールドワークについて情報提供してもらい、フィールドワーク教育に必要な技法、知識などを共有化していく予定である。

これが学環のフィールドワークの現在地である。とすれば、現状ではフィールドワークに携わっている教員も学生も素人に近いので、地域に対してあまりお役に立つことはできないというのが正直なところだろう。そこで、受け入れてくださっている地域の皆さまにお願いしたいことがある。長い目を見て、フィールドワークでうかがう学生と教員に率直な意見、考えを投げかけ、ともに汗をかいてくださり、学生と教員を育てていただきたい。そのことを通して、将来的に学環を巣立った学生が地域で活躍できる人材となってい

くならば、皆さまにとっても喜ばしいのではないだろうか。このように、地域の皆さまには、学環のフィー

ルドワークを大学と地域による共同教育だと思ってご協力いただければというのが私の願いである。

2018年度静岡大学公開講座

今年度の静岡大学公開講座は、4月から3月にかけて、多岐にわたるテーマで実施されました。全体の実施状況は以下の表のとおりです（開催順）。

今年度の実施成果をもとに、来年度以降の公開講座のあり方に結びつけていきたいと思います。

講座名	講師	日時	会場	対象	各日 定員	延べ 人数	受講料	主催
藤枝フィールドの散策と春の雑草観察	農学部教授・稲垣栄洋	4/26(木)13:00～16:00	農学部附属 地域フィールド 科学教育研究 センター藤枝 フィールド	どなたでも（小学生以下は保護者同伴）	30	30	無料	農
私のミカン～ミカンの通年管理教室～ [全5回]	技術部技術専門職員・成瀬博規 技術部技術職員・周藤美希 農学部准教授・八幡昌紀	5/8、7/3、9/18、11/13、 3/5(火)13:30～15:30	農学部附属 地域フィールド 科学教育研究 センター藤枝 フィールド	一般市民	10	48	10,000	技
安心登山・アウトドア活動のための読図とナビゲーションスキル（初級編）	教育学部教授・村越 真 プロアドベンチャーリーダー・宮内佐季子	5/19(土)9:30～16:30	静岡キャンパス 及び屋外	登山・アウトドア活動を行う一般市民	25	23	3,000	教
地歌箏曲入門 [全4回]	教育学部准教授・長谷川 慎 地歌箏曲演奏家・日吉章吾	6/6・20、7/4・18(水) 19:00～21:00	静岡キャンパス	一般市民、学校教員（小・中・高等学校）	20	40	無料	教
学ぶって楽しい～大学で学ぼう～ [全3回]	文京学院大学客員教授・松為信雄 NPO法人GreenWork理事長・松矢勝弘	6/17、10/21、12/16 (日)9:30～11:30 10/21のみ9:30～ 11:30、13:00～15:00	静岡キャンパス	知的障害のある方およびその保護者、一般市民	100	172	無料	教
紅茶作りに挑戦しよう	農学部教授・稲垣栄洋 技術部技術専門職員・西川浩二 技術部技術専門職員・成瀬和子	7/26(木)13:00～16:00	農学部附属 地域フィールド 科学教育研究 センター藤枝 フィールド	一般市民（小学生以下は保護者同伴）	20	20	1,000	技
作って学ぶ、工学部の化学実験	工学部教授・植田一正 技術部技術専門職員・草薙弘樹	7/26(木)または7/28 (土)いずれも14:00～ 17:00	浜松キャンパス	中学生・高校生（保護者同伴可）	20	31	無料	工
遺伝子の世界を見てみよう [全2回]	グリーン科学技術研究所准教授・道羅英夫 グリーン科学技術研究所特任助教・兼崎 友 技術部技術職員・森内良太	8/1(水)10:00～17:00、 8/2(木)10:00～15:00	静岡キャンパス	県内高校生	20	40	無料	グ
体験!大学の化学実験 [全2回]	グリーン科学技術研究所教授・近藤 満 理学部講師・守谷 誠	8/18(土)・19(日) 10:00～16:00	静岡キャンパス	中学生・高校生（保護者の同伴可能）、理科教育の関係者	30	37	無料	グ
中高生のための心理学入門	人文社会科学部教授・笠井 仁 人文社会科学部教授・橋本 剛 人文社会科学部教授・幸田るみ子	8/21(火)9:30～12:30	静岡キャンパス	中学生・高校生	120	94	無料	人

講座名	講師	日時	会場	対象	各日 定員	延べ 人数	受講料	主催
愛おしさから読み解くくだもの の多様性～園芸と民藝の融 合～〔全2回〕	青パパイヤ生産者・高田義雄 農学部准教授・松本和浩	8/31、11/30(金) 14:00～16:30	健康文化交流 館「来・て・こ」	くだものの栽培、 利用、消費に興 味が、多様な 遺伝資源を使っ て地域を活性化し たい、あるいはコ ミュニケーション を活発化したいと 考えている市民、 学生、生産者、 企業人など	50	120	無料	〔農〕
静岡県東部・伊豆の歴史と 自然	静岡大学名誉教授・本多隆成 理学部准教授・徳岡 徹	9/8(土)13:10～16:00	プラザヴェルデ	一般市民	80	66	無料	〔地〕
安心登山・アウトドア活動の ための読図とナビゲーション スキル（中級編）	教育学部教授・村越 真 オリエンテーリング日本代表選手・小泉 成行	10/7(日)9:30～16:30	屋外（静岡市 郊外）	過去に初級編を 受講した方、又 は地形図の基礎 知識がある登山 経験者で6-7km 程度を無理なく 歩ける方	20	20	3,600	〔教〕
静岡大学キャンパスミュージアム 公開講座2018〔全5回〕	理学部准教授・徳岡 徹 理学部准教授・石橋秀巳 人文社会科学部教授・篠原和大 技術部技術長・宮澤俊義 ふじのくに地球環境史ミュージアム・岸本年郎	10/13・20・27、11/3 (土)10:00～12:00 11/3のみ10:00～ 12:00、13:00～15:00	静岡キャンパス	一般市民、学生、 小中高生（中学 生以下は保護者 同伴）	15	71	無料	〔キ〕
市民社会と法〔全5回〕	法務研究科特任教授・中村和夫 地域法実務実践センター教授・板倉美 奈子 地域法実務実践センター教授・朱 嘩 法務研究科教授・根元 猛 法務研究科教授・吉川真理	10/13、11/10、12/8、 1/26、2/9(土)13:30～ 15:30	アイセル21（静 岡市葵生涯学 習センター）	一般市民	30	128	無料	〔人〕
サンティアゴ巡礼を学ぶ・楽 しむ～スペイン、フランス、メ キシコのカミーノ～	立命館大学准教授・田辺加恵 人文社会科学部准教授・大原志麻 専修大学教授・井上幸孝 人文社会科学部教授・花方寿行 人文社会科学部教授・今野喜和人	11/3(土)10:00～16:00	あざれあ（静 岡県男女共同 参画センター）	一般市民	100	105	無料	〔人〕
暮らしを支える情報活用の最 前線	情報学部教授・杉山岳弘 情報学部准教授・遊橋裕泰 情報学部助教・石川翔吾 情報学部教授・湯浦克彦	11/10(土)10:25～ 12:00	浜松キャンパス	興味のある方な らどなたでも	70	91	無料	〔情〕

【主催欄凡例】

〔人〕＝人文社会科学部 〔教〕＝教育学部 〔情〕＝情報学部 〔工〕＝工学部 〔農〕＝農学部 〔キ〕＝キャンパスミュージアム
〔グ〕＝グリーン科学技術研究所 〔地〕＝地域創造教育センター 〔技〕＝技術部



遺伝子の世界を見てみよう



紅茶作りに挑戦しよう

地域創造学環部門の下半期（10月～3月）事業報告

地域創造学環のカリキュラムの柱となるフィールドワークでは、地域と連携しながら地域の課題解決に取り組んでいます。2018年度後期は、新たに2つのフィールドが加わり、静岡県内15フィールドで、皆様のご協力のもと、様々な活動を行いました。

地域創造学環ホームページでは、フィールドワーク活動を学生が紹介するコーナーもありますので、ぜひご覧ください。

静岡大学地域創造学環ホームページ

<http://www.srd.shizuoka.ac.jp/>

【平成30年度後学期フィールドとテーマ】

フィールド	テーマ
静岡市 清水港周辺地域	浜田・清水地区の情報発信とおもてなしによる交流・活動人口の増加
静岡市 庵原地区	地域資源を活かしたスポーツと食による「健康長寿のまちづくり」
静岡市 東静岡駅前	アートとスポーツによるにぎわい創出
静岡市 駒形通四丁目商店街	駒形通四丁目商店街のにぎわい創出
静岡市 浅間通り商店街	浅間通り商店街のにぎわい創出
焼津市 浜通り	地域住民と高校生との交流に基づいた地域づくり活動
浜松市 浜松文芸館 (公益財団法人 浜松市文化振興財団)	若者の文芸離れを食い止めよう
浜松市 佐久間町	商品開発で交流の環づくり
田園空間博物館 南遠州とうもろの里	産地直売運営と交流人口拡大
【新設】御前崎市	御前崎スポーツ振興プロジェクト—スポーツによる交流人口の拡大と産業振興の推進—
松崎町	①なまこ壁が残る松崎町商店街のにぎわい創出 ②防災と観光の両立
東伊豆町	新しい観光スタイルの発掘・創出プロジェクト
伊豆半島ジオパーク	ユネスコ世界ジオパークにおける環境保全・防災啓発・教育方法の開発
県営団地	県営住宅団地における居場所づくりと地域福祉資源のネットワーク
【新設】学内地域連携拠点	静大発 地域と大学の連携を広めよう！

新設2フィールドの取り組みの紹介

■御前崎市

御前崎市では、スポーツによる地域活性化に向けて「御前崎スポーツ振興プロジェクト」が進められています。地域創造学環の学生たちもプロジェクトに参画し、産官学民連携のフィールドワークを展開しています。

学生たちは、現地視察や関係者への聞き取り、先行事例の分析を重ね、「全国から大学生を御前崎市に集めるための企画」と「御前崎市にラグビーワールドカップ日本大会のレガシーを残すための企画」に取り組んでいます。

2019年2月13日（水）には、御前崎市役所で中間成果発表会を開催しました。市職員の方々との意見交換会も開催しました。

来年度以降は、提案した企画のブラッシュアップに向けて、さらに取り組みを進めていきます。



現地視察の様子



意見交換会の様子



中間成果発表会の様子

■ 学内地域連携拠点

学内地域連携拠点のフィールドワークでは、静岡大学地域創造教育センターや全学で取り組まれている「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」等をはじめとする、地域と大学の結びつきを強めるための取り組みに地域創造学環の学生が参画し、大学の地域連携を充実させる実践的活動を展開しています。

具体的な活動として、他のフィールドの活動取材し大学の地域連携関連活動を外部に紹介する広報手段の検討や、他大学のカリキュラムとの比較検討、他大学の学生との交流を深めました。

また、現在は外部からの地域連携の要望を学内(学生・教職員)に周知する手段が乏しいため、そのシステムを検討し、構築に向けて活動しています。



大学内で、地域連携についてのレクチャーを受ける



大正大学を訪問し、地域創生学部が運営するアンテナショップの説明を受ける

各フィールドの取り組みの紹介

今回は静岡市で活動をする4フィールドの取り組みをご紹介します。

■ 清水港周辺地域

2018年度後期は、清水地区と浜田地区それぞれの移住促進パンフレットを作成したほか、浜田地区で開催の「平成最後の秋祭り」に企画段階から協力。体力測定などを行う「チャレンジコーナー」や来場者と清水区広報キャラクター「シズラ」のイラストを完成させる「アートコーナー」を担当しました。

また、次郎長通りの活性化に向けて清水地区連合自治会と協力しアンケートを実施。2月19日(火)には美濃輪町自治会館にて学生から調査結果をふまえた今後の活性化のための提案を発表しました。学生の発表をきっかけとして、自治会、商店街の皆さんとの活発な意見交換が行われました。



2018年11月11日開催の「平成最後の秋祭り」でのチャレンジコーナー



2月19日に美濃輪町自治会館で今後の次郎長通りの活性化のための提案を発表

■ 庵原地区

静岡市清水区にある庵原地区は「清水ナショナルトレーニングセンター」や「庵原球場」を有し、またお茶やみかんなどの農産物が栽培される農業地帯でもあります。2018年度は「公益財団法人静岡市まちづくり公社」とともに、庵原地区でフィールドワークに取り組んでいます。

2019年1月20日(日)、清水ナショナルトレーニングセンターで開催された「J-STEP マルシェ2019」では、学生たちはウォーキングスタンプラリーの運営や広報活動のほか、案内看板のデザインなどをしました。当日はプロサッカーJ2リーグの「ヴァンフォーレ甲府」が同施設でキャンプ中ということもあり、地元住民だけでなく、サポーターの皆さんとも交流をしました。



2019年1月20日(日)開催の「J-STEP マルシェ2019冬」



■ 駒形通四丁目商店街

駒形通四丁目商店街は、生鮮商品や生活雑貨を販売する商店が連なるトリコロールカラーのアーケードが特徴の商店街です。

2018年10月には、商店街を撮影することにより魅力を再発見してもらうイベントを開催しました。好評のため、2019年3月2日にも第2弾「駒形パシャらっち〜お雛様とお内裏様の商店街旅行〜」を実施しました。このイベントでは参加者に雛人形を渡し、商店街内をスタンプラリーを行いながら、雛人形の記念撮影をしてもらうもので、イベント当日の楽しみはもちろん、写真を使って、商店街の魅力を広げてもらうことを目的としました。当日は、雛祭りにあわせて商店街の飾り付けも行いました。商店街全体が楽しい雰囲気の中、多くのお子さまに参加いただきました。



(上) 3月2日開催のイベント「駒形パシャらっち」の様子

(左) 学生制作の2019年3月開催のイベント「駒形パシャらっち」のポスター

■ 浅間通り商店街

浅間通り商店街は、静岡浅間神社の参道に連なる商店街です。

商店街の振興組合では、当地で生まれ日本とタイの交流の基礎を築いた山田長政を顕彰した「長政まつり」や、「輪くぐりさん」、「平成安倍の市」など、様々な催しを行っています。

フィールドワークでは、これらの催しのお手伝いをするとともに、2018年10月に行われた「長政まつり」では、「子ども広場」の企画・運営を行いました。

現在は、次年度の活動に向け、「長政まつりを推進するチーム」、「輪くぐりさんを推進するチーム」、「商店街の情報をSNSを利用して発信するチーム」、「商店街のマップを作成するチーム」、「商店街の通りの飾り付けを提案するチーム」の5チームに分かれ、それぞれが検討を進めています。



「長政まつり」の準備の様子



「長政まつり」子ども広場でのメンコ遊び

キャンパスフェスタin静岡に出展しました

2018年11月17日（土）、18日（日）に静岡大学静岡キャンパスにて開催された、「キャンパスフェスタin静岡」において、静岡県内各地で行っているフィールドワークについてポスター展示を行うとともに、実際にフィールドワークに取り組んでいる学生が活動を紹介しました。

来場者の高校生からは、「進路について考える良いきっかけになりました」、「ここに来て学びたいという気持ちがよりいっそう強くなりました」という声をいただきました。また、社会人の方からも「静大生と地域のつながりについて今まで知らなかったが地域活性

化のため足を運び、イベントの実施などを行っていることを知ることができた」という声をいただきました。

多くの方にご来場いただきありがとうございました。



キャンパスフェスタでの展示・発表の様子



静岡県内大学 地域教育・研究フェアに出展しました

地域創造学環では、2019年2月14日（木）に静岡駅北口地下広場イベントスペースにて開催された、「静岡県内大学 地域教育・研究フェア」において、フィールドワークについてポスター展示を行いました。

会場では、佐久間町フィールドの学生が、現地の加工グループ「パンプキンレディース」が製造しているお菓子「ごまちゃん」のPRをしました。

また、アンケート調査を行い、アンケートに回答していただいた方に、パンプキンレディースと協働で、新しい風味の開発に取り組み製造した新作菓子「ごまび」を配布しました。



学環フィールドワークパネル展示の様子



アンケートに回答していただいた方へ「ごまび」を配布

2018年度地域創造学環フィールドワーク報告会 開催のお知らせ

この1年間をととして学生たちがどのような取り組みを行ってきたのか、下記の日時で報告をさせていただきます。入場無料、事前申込不要、入退出自由です。ぜひ、ご来場ください。

【2018年度 静岡大学 地域創造学環

フィールドワーク報告会】

日時：2019年5月30日（木）10:15～15:30

場所：しずぎんホールユーフォニア

（静岡市葵区追手町1番13号アゴラ静岡8階）

静岡鉄道新静岡駅 徒歩5分、JR静岡駅 徒歩10分

お問い合わせ先：静岡大学 教育連携室 地域創造学環係
〒422-8529 静岡市駿河区大谷836

電話 054-238-4256（土・日・祝を除く9～17時）

地域づくり副専攻



地域づくり副専攻※は、静岡大学の全学部2年生以上を対象とした制度で、2017年度からスタートしました。

学生の所属学部や学科等における専門性の視点から、地域課題の解決に取り組む人材の育成を目的としています。

講義では、地域課題の解決に資する様々なアプローチを習得する専門科目群とともに、実践的な調査方法や組織論などを学びます。また実習では、活動内容の異なる複数のフィールドワーク協力団体のもと、実際に展開している活動に自らを置くことで、計画力や自己管理能力、社会性など、実社会で必要な地域課題解決能力を習得します。

※副専攻とは、所属する学部や学科の授業科目にとどまらず、自身の専攻（主専攻）以外に、興味や関心のある特定のテーマに沿った教育科目を横断的に学ぶ制度です。



実習の様子



静岡大学地域づくり副専攻ホームページ

<http://www.srd.shizuoka.ac.jp/sub-major/>

地域人材育成・プロジェクト部門の下半期事業報告

静岡大学創立60周年記念事業を継承した連携講座

1 静岡大学・読売新聞連続市民講座「どんな時代だったのか～平成の静岡」

回	開催日	タイトル	講師	参加者
1	6/30(土)	減災から防災社会へ～想像力の欠如に陥らない防災を～	岩田孝仁(静岡大学地域創造学環・防災総合センター教授)	124
2	8/4(土)	静岡の大地が語る言葉を読み解く ～世界遺産・富士山と伊豆半島ジオパーク～	小山真人(静岡大学地域創造学環・教育学部教授)	166
3	9/1(土)	平成の大合併・地方版総合戦略と静岡県自治体	西原 純(静岡大学名誉教授)	132
4	10/6(土)	静岡発の次世代テレビジョンをつくる!	川人祥二(静岡大学電子工学研究所教授)	108
5	11/17(土)	人口減少社会の処方箋 ～女性の活躍とは? 男女共同参画を考える～	跡部千慧(静岡大学男女共同参画推進室助教)	111

■会 場：あざれあ(静岡県男女共同参画センター)6階大ホール

■参加費：無料

■連携先：読売新聞東京本社静岡支局

2 静岡大学・中日新聞連携講座「静岡大学の現在」

回	開催日	タイトル	講師	参加者
1	9/11(火)	ナノフォトニクス最前線 ～レーザーが拓くナノテクノロジー～	川田善正(静岡大学工学部長)	76
2	10/9(火)	カイコは素晴らしいバイオフィクトリー	朴 龍洙(静岡大学グリーン科学技術研究所長)	68
3	11/13(火)	海底堆積物からの贈り物、メタン! ～基礎研究から社会実装まで～	木村浩之(静岡大学グリーン科学技術研究所・理学部教授)	63
4	12/11(火)	人工知能が拓げる農業の可能性	峰野博史(静岡大学情報学部教授)	60
5	1/22(火)	コンピュータは言語を操れるか ～自然言語処理による知的システム構築の挑戦～	狩野芳伸(静岡大学情報学部准教授)	60

■会 場：静岡大学浜松キャンパス 附属図書館浜松分館(S-Port)3階大会議室

■参加費：無料

■連携先：中日新聞東海本社

地域連携応援プロジェクト

今年度下半期に取り組んだプロジェクトの実施状況を報告します。

■音楽と朗読による地域遺産の継承

『瀧口入道』を聴く。～高山樗牛入門～

いま、地域に所縁の伝説や人物について、どのように若い人たちに伝え、継承していけばよいのかが問題になっています。

日本平の東麓、清水港の向こうに富士山を仰ぐ観富山龍華寺には「文豪」高山樗牛のお墓がありますが、樗牛を知らない、作品を読んだことがないという方も多いことでしょう。そこで今回は、樗牛唯一の小説作

品『瀧口入道』を、講師の解説に加え、学生たちのハイライト朗読で読んでみました。朗読をSPAC俳優の奥野晃士氏、歌唱を丸山研二郎氏より指導を受けて練習を続けた学生が、その成果を地域の皆さんの前で披露しました。

- ・日時：2019年2月22日(金)13:30～16:00
- ・会場：観富山龍華寺 会館
- ・講師：静岡大学人文社会科学部教授 小二田誠二
- ・朗読：静岡大学人文社会科学部学生
- ・参加費：無料(拝観料実費)
- ・参加人数：約40人

地域の課題を公募し、解決支援を試みる「地域課題解決支援プロジェクト」も6年目に入りました。本年度下半期に取り組んだ課題の進捗状況について報告します。

■ 松崎町

松崎町では「商店街の魅力発掘とにぎわい創出」「防災と観光の融合」のテーマに分かれ、11月2～4日、1月26～27日、2月12日～13日に地域創造学環フィールドワークが行われ、秋祭りへの参加、商店街調査、中高生との交流会等の取り組みが行われました。また、フィールドワークから派生した取り組みとして、11月29日 松崎中との交流会（FW有志）、12月15～16日 静大野球部員による松崎町スポーツ少年団への野球教室（野球部有志）も実施されました。



静大野球部による野球教室

■ 東伊豆町

東伊豆町では、2017年度後学期から「新しい観光スタイルの発掘」をテーマに、10月6～7日、12月15～16日、1月19～21日、2月28日～3月3日にフィールドワークが行われ、東伊豆町商工会青年部、空き家改修プロジェクトを展開する芝浦工大生との交流を図り、地元小学生の協力を得ながら、地域活性化イベン



雛フェス実行委員との企画会議

ト「雛フェス」における自主企画事業を実施しました。



雛フェス企画・ライブペイント

■ 南伊豆町

南伊豆町では第2期公募に対する課題提案をきっかけに、これまで商店街空き店舗やサテライトオフィスの視察、伊浜地区のまち歩き等を行ってきました。今期は伊浜地区での静岡大学地域人材育成研修会「ご当地カルタを作ろう」を企画し、地元自治会の方々の協力を得ながら、12月7～8日に第1回、3月24～25日に第2回の研修を行いました。研修では、本学学生だけでなく、伊豆および静岡地域の行政職員、地域おこし協力隊が参加しました。



まちを歩いてカルタの素材を探す



カルタづくりの様子

地域人材育成研修会 「ご当地カルタを作ろう」

近年、地域運営の担い手育成を目的としたリーダー育成や、地域資源の活用をテーマにした講座が各地で開催されていますが、いざ自らの地域に持ち帰って実践しようとしても、仲間や賛同者の不足や経験のなさから、なかなか実行に移せないという話を耳にします。

そこで、実際に地域運営を支援する行政職員や地域活動団体、地域おこし協力隊などの実践者を対象に、地域づくりに関する座学型研修会を発展させ、地域資源の調査から検討、活用を学ぶための実践型の研修会を実施しました。

- ・日程：2018年12月7日（土）、8日（日）
- ・会場：南伊豆町伊浜山村活性化センター
- ・プログラム：
 - ①12/7日（土）「伊浜地区内取材、カルタづくりワークショップ」
 - ②12/8日（日）「カルタカタリ大会、交流カルタ大会、カルタ活用ワークショップ」
- ・講師：皆田 潔（静岡大学地域創造教育センター准教授）
- ・ゲスト講師：藤井礼子（島根県西部県民センター地域振興課）
- ・参加対象：行政職員、公民館関係者、地域おこし協力隊など
- ・参加費：無料（宿泊費実費）
- ・参加者数：延べ33人



公開シンポジウム 「地域連携が拓く教育と研究の可能性」

地域の様々な課題を公募し、その解決支援を試みる静岡大学の「地域課題解決支援プロジェクト」が6年目を迎え、県内各地で活動を展開しています。

これまでのプロジェクトの、地域・大学双方の関係者を集めた公開シンポジウムを開き、県内の取り組み事例を報告しながら、地域課題に取り組むことによって広がる教育と研究の可能性を探りました。

- ・日時：2018年12月27日（木）13:20～17:00
- ・会場：静岡大学静岡キャンパス共通教育A棟301
松崎町交流拠点施設ふれあいと一ふや。
（遠隔テレビシステムで2会場を結んで実施）
- ・プログラム：
 - [報告1]「伊豆半島における地域づくりの課題と可能性」報告者：深澤準弥（松崎町）、杉沢優太（芝浦工業大学「空き家改修プロジェクト」・東伊豆町稲取）
 - [報告2]「フューチャーセンター×地域 対話と協働の取組事例から」報告者：宇賀田栄次（静岡大学学生支援センター准教授）、増田彩香（静大フューチャーセンター運営学生）
 - [報告3]「しずおかキッズカフェ」報告者：小林タバサ（しずおかキッズカフェ代表）
 - [報告4]「被災地に緑を！～全国の農業クラブと挑戦した環境保護活動」報告者：望月基希（静岡県立富岳館高等学校教諭）、農業クラブキノコ研究班
 - [パネル・ディスカッション]
パネリスト：報告者、課題提案者（NPO法人ローカルデザインネットワーク 荒武優希）
コーディネーター：阿部耕也（静岡大学地域創造教育センター教授）

- ・参加費：無料
- ・参加者数：110人



共催事業

公民館主事等研修事業

「地域の交流拠点をつくる」

静岡県内の公民館等において、地域住民の学習活動を支援している公民館主事等への教育研究情報の提供と大学とのネットワークづくりを進めるとともに、指導者の資質向上をはかることを目的に、静岡県教育委員会社会教育課との連携事業として実施するものです。

公民館を取り巻く環境は近年大きく変化し、社会教育・生涯学習の場として、また人材育成・地域づくりの拠点として、これまで以上に地域の住民・機関・団体との連携・協働が求められています。地域のもつ資源、人材、ネットワークを活かしながら、子ども・若者など若い世代の学びを支え、世代間交流を活性化し、地域づくりにつなげる方策を探りました。

- ・日時：2018年12月6日（木）10:20～16:00
- ・会場：静岡市興津生涯学習交流館
- ・プログラム：

〔基調報告〕

- ①「地域づくりの拠点をつくる、活かす～地（爺）

場（婆）産倶楽部とケーキ屋さん～」報告者：藤井礼子（島根県西部県民センター地域振興課）

- ②「地域学校協働本部活動の実際～地域と学校を結ぶ」報告者：兼子千津子（袋井市立三川小学校 地域学校協働本部コーディネーター）

〔事例報告〕

- ①「平成29年度優良公民館等優良表彰館の取り組み」報告者：滝口泰宏（袋井市立笠原コミュニティセンター館長）
- ②「多世代が参画する地域協働活動～中高生NPO体験セミナー」報告者：笠原活世（菊川市市民協働センター・センター長）

〔事例報告とグループワーク〕

「子どもと地域をつなぐ」報告者およびファシリテーター：弓削幸恵（NPO法人まちなびや）

- ・参加費：無料
- ・参加者数：45人
- ・主催：静岡大学地域創造教育センター、静岡県教育委員会社会教育課

企画協力事業

大学特別公開講座

「+（プラス）しずおか学」

- ・日時：2019年3月1日（金）～3月15日（金）[全3回]
19:00～20:45
- ・プログラム：

- ①3/1（金）「地域の力×アートの力～静岡での試み～」講師：白井嘉尚（静岡大学教育学部教授）
- ②3/8（金）「戦時期静岡の景観変容～静岡大学周辺を中心に～」講師：戸部 健（静岡大学人文社会科学部教授）
- ③3/15（金）「古典文学の中の静岡」講師：小二田誠二（静岡大学人文社会科学部教授）

- ・会場：吉田町中央公民館

富士宮市民カレッジ（1期）

「今注目の伊豆半島ジオパーク&富士山に迫る！静岡の地形と地質～来る災害に備えて～」

- ・日時：2018年11月7日（水）、14日（水）、21日（水）
[全3回] 19:00～20:30

- ・プログラム：

- ①～③「火山がつくった大地を読み解く～世界遺産・富士山と伊豆半島ジオパーク」講師：小山真人（静岡大学地域創造学環・教育学部教授）

- ・会場：富士宮市役所

富士宮市民カレッジ（2期）

「静岡を知る！歴史探訪～くらしと社会～」

- ・日時：2019年1月23日（水）～2月6日（水）[全3回]
19:00～20:30

- ・プログラム：

- ①1/23（水）「静岡の農耕社会の成り立ち」講師：篠原和大（静岡大学人文社会科学部教授）
- ②1/30（水）「中世の静岡と地域社会」講師：貴田 潔（静岡大学人文社会科学部准教授）
- ③2/6（水）「江戸時代の寺社と地域社会」講師：松本和明（静岡大学人文社会科学部准教授）

- ・会場：富士宮市役所

その他の地域連携事業

静岡県議会事務局との連携事業 平成30年度 静岡大学学生と静岡県議会議員 との意見交換会

昨年度に続き、今年度も静岡大学学生による県議会傍聴と議員との意見交換会を実施しました。

人文社会科学部・日詰ゼミの4年生8人が参加し、本会議場で12月定例会一般質問を傍聴した後、議員2人と意見交換を行いました。

- ・日時：2018年12月11日（火）13:30～16:00
- ・テーマ：「若者が政治や議会に興味を持ってもらうために」
- ・会場：静岡県庁本館



市民開放授業

静岡大学市民開放授業は、静岡大学の学生が受講している正規の科目の一部を一般市民の方に開放するものです。単位の認定はありませんが、入試なし、受講資格不要、簡単な手続きで受講できます。正規学生と一緒に受講していただきますので、若い世代の学生と交流を持ちながら学ぶことができます。

2018年度の前・後学期別の開講科目数・受講者数の状況は次のとおりです。

開講科目数			受講者数		
前学期	後学期	合計	前学期	後学期	合計
216	197	413	137	147	284

3月と9月の年2回、静岡キャンパスおよび浜松キャンパスで事前説明会を開催しています。ご興味・ご関心のある方はぜひご参加ください。

社会連携シーズ集刊行

静岡大学地域創造教育センターでは、昨年度、地域社会への貢献を推進するため、「静岡大学地域連携シーズ集2018」を刊行しました。今年度は、地域社会との連携をより一層加速させていくために名称を「社会連携シーズ集」に改め、2019年度版を作成しましたので幅広くご活用ください。ウェブサイトからもご覧いただけます。

URL： <http://www.lc.shizuoka.ac.jp/seeds.html>

2018年度企画実施委員会

当センターには、「企画実施委員会」が組織されています。地域連携・課題解決に関する事項や全学公開講座の企画・立案・実施に関する事項、その他大学開放および地域人材育成に関する事項について検討しています。今年度の委員は以下のとおりです。

丹沢 哲郎 地域創造教育センター長／理事
 平岡 義和 地域創造教育センター教授
 阿部 耕也 地域創造教育センター教授
 皆田 潔 地域創造教育センター准教授
 岸本 道明 地域創造教育センター特任教授
 笠井 仁 人文社会科学部教授
 渋谷かさね 教育学部准教授
 酒井三四郎 情報学部教授
 三重野 哲 創造科学技術大学院教授

戸田三津夫 工学部准教授
 水永 博己 農学部教授
 水谷 洋一 地域創造学環教授
 松尾由希子 教職センター准教授
 村本 定則 学務部教育連携室長

地域と大学 第38号

発行日——2019年3月27日

発行——静岡大学地域創造教育センター

編集——大谷 悦子

〒422-8529 静岡市駿河区大谷836
 （事務局別館2階）

TEL: 054-238-4817 FAX: 054-238-4295

E-mail: kaiho@suml.cii.shizuoka.ac.jp

URL: www.lc.shizuoka.ac.jp/

（事務局）学務部教育連携室 ☎ 054-238-4055